

第 1 回 桑名市行政改革推進委員会 会議概要

「補助金の見直しの方向性について」抜粋

日時・場所	平成 28 年 10 月 21 日(金) 14:30 ~ 16:45 桑名市役所本庁舎 3階 第2会議室
出席者	委員: 6名 市: 3名 事務局: 14名
会議次第	1 市長あいさつ 2 報告 (1) 公民連携ワンストップ対話窓口『コラボ・ラボ桑名』の開設について 3 議案 (1) 補助金の見直しの方向性について (2) 公民連携ネーミングライツ・パートナーシップ提案制度について
概要 (意見抜粋)	<p>3 議案</p> <p>(1) 補助金の見直しの方向性について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 少額の補助金見直しに関しては、事務量に対して、削減額という観点から効果が薄いため、まずは高額補助金から見直しを進め、優先順位をつけて効率よく行うのが良いのではないかと。 ・ 市民団体の活動を見ていると、自治体からの補助金収入がわずかでもあると、「地域のため」という目標ができるケースもあり、少額の補助金の中にも、政策的意義があるものもある。ばらまきの補助金ではなく、政策の実現につながる少額補助金は確認しなければならない。今回の見直し目的が補助金総額を下げたいのなら、高額補助金から着手する方が効率は良い。 ・ 団体への補助金を減らすのであれば、例えば 10 年計画のようなものを策定したうえで、10 年後に補助金を削減すると通知して、経営の効率化や収入の確保策を、団体と行政が 10 年間継続して模索する手法が必要である。それを全ての団体で行うのは大変なため、まずは金額の大きい 10~20 団体に絞って見直ししながら、目標を立てるのはどうか。この手法は少額補助金に対しては、労力に見合う効果が期待できないので不向きである。 <p>◆今回における「補助金の見直し」では、1本1本ゼロベースで補助金の見直しを行うことを目的としている。そのなかでも高額補助金は、特に時間をかけて見直しを進めていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 少額補助金はまとめて整理して扱えば、事務的効率も上がる。 <p>◆少額補助金に対しても検証を実施した結果、「公益性のあるもの」と「公益性のないもの」に選別された。少額補助に対しても、まとめて整理することが難しいため、1本1本見直しを行う。</p> <p>【別添 補助金に関する調査・分析結果 P9 参照】</p>

- ・ 資料に「補助金とは…特定の事業、研究等を育成するために市が、公益上必要があると認めた場合に支出するもの」とあるように、将来の展望が見込める事業に拠出するのが望ましい。事業の単なる維持のために支出するのではなく、団体の努力や変化を補助する拠出という方向性が必要と感じる。

◆「事業費補助の原則」を徹底し、公益性が認められ、かつ自助努力をもってもなお、不足する部分を補助する考え方で見直しを行う。なお、事業費の1/2以内を原則とすることとした。

【方針 P3 見直しの視点①：事業費補助の原則】

- ・ 補助金の分類を明確にし、補助金の行政的効果を測定できる手段を持つことが必要である。全ての補助金に適用できるかは疑問であるが、行政目的を果たしたかどうかをわかりやすく示す形で補助金の見直しを進められたい。
- ・ 終期設定の無いものは、初めの申請ですつともらえるのか
⇒ 1年ごとに申請をもらい、拠出している。団体は補助金をアテにして事業の計画をするので、既得権化しやすい性質はある。
- ・ 債務負担行為を執行せずに複数年に渡り、継続して補助金を拠出している事業は、地方自治法上問題があるのではないか。そのような事業に対しての支出科目は補助金が正しいのか疑問である。

◆行政目的や効果を果たしたかを客観的に見直すため、「終期の設定」を徹底していく。

【方針 P3 見直しの視点②：終期の設定】

- ・ 補助金の見直し方針（案）に、「すべての補助金に交付要綱を策定」と記載されているが、事務に係る労力が大きいと考えられるため、重要なもののみ交付要綱を制定する方向が良いのではないか。

◆現状の補助金を調査した結果、すべての補助金に対して要綱等が制定されていた。しかし、効果・検証が曖昧なまま、補助金を交付しているおそれがあるため「すべての補助金に交付要綱を検証する」に改めた。

【方針 P4 見直しの視点③：「すべての補助金について交付要綱を検証」】

- ・ 交付基準を明確にし、申請基準の条件を厳しくするのはどうか。

◆補助金を分析した結果、要綱の検証、交付基準等が曖昧なまま、補助金を交付している事例が存在することが判明した。そのため、「交付要綱の制定」、「補助算定経費、算定基準の明確化」を徹底する。

【方針 P4 見直しの視点③：すべての補助金について交付要綱を検証、見直しの視点⑤：補助対象経費、算定基準の明確化】

- ・ 少額補助金こそ本来の補助金と認識している。
- ・ 「少額補助金の廃止」とも記載されているが、削減できる金額が労力に見合わないため、この方向性には疑問を感じる。
- ・ 資料 補助金の見直し「④少額補助金の廃止」以外の方向性は良いと思う。

◆ヒアリングを実施した結果、「少額補助金を一律に廃止すること」は難しいと判断した。そこで「少額補助は公益性や優先順位から判断をして、廃止を含めて検討をする」と方針を改めた。

【方針 P4 見直しの視点④：少額補助金の公益性の確保】

- ・ 500万円以上や1000万円以上で区切るなど金額の大きい補助金の事業仕分けを行い、事業補助と市民のための補助との区分を明確にし、メリハリのついた交付をするべきである。
- ・ 静岡市では、事務事業市民評価会議において事業仕分けを行い、公表している。こういったものを取り入れることで市民への理解は深まるのではないか。
- ・ 団体の意識改革が必要であるため、団体に補助を受けるに足る説明を求めるべきである。

◆財源の多くは税金が使われていることと、透明性を高めることから第三者委員会（外部評価）を設置し、「補助金の方針に基づく見直しができないもの」「市として評価を求めるもの」は外部評価を受ける機会を設けるようにした。

【方針 P4 「6 第三者委員会（外部評価）の実施」】

- ・ 市民は厳しい財政状況をどこまで理解しているのか。
- ・ 市民の方にも、限られた予算の中から、どの補助金を選択すると財政を圧迫しないのかを判断してもらうために、補助金の現状とその実態（補助金支出目的、事業内容）総予算における補助金支出割合などを情報開示していくべきである。

◆市民への説明責任を果たすため「見直しの透明性」を徹底する。

【方針 P5 「7 見直しの透明性の確保」】

- ・ 地元企業や団体の育成において、公と民の連携が必要な中で、民間の事業開始を支援する際は補助金拠出ではなく、行政の分担金としての拠出が適正と考えるため、よく議論されたい。

◆補助金の支出が適当でない場合は、補助金以外のふさわしい手法に切り替えていく。

【方針 P5 「9 その他（2）他の手法への切り替え」】

- ・ 競争原理を働かせ、やる気のある団体が行っている意味のある事業に対し、補助金を拠出する方法が良いのではないか。
- ・ 事業によっては競争原理が働くものもあると思うので、ヒアリングやプレゼンテーションで交付先を選定する手法も検討されたい。
- ・ 補助メニュー、事業によっては競争原理が全く働かないものもあり、無くなってしまうと行政として困るものもある。

◆一部、プロポーザル方式による補助金交付が見受けられたが、既存補助金は多くの課題を抱えている。そのことから、まずは課題解決に向けた整理をしてから検討をしていく。 → 【方針への反映は現時点では考えていない】

- ・ 補助金の見直しの方針の目的として、補助金の総額を減らすことが目的なのか、行政目的を効率的に達成する手段としての補助金の仕組みづくりが目的なのか、両方が目的なのかを決定されたい。

◆両方を目的とする。方針に基づきゼロベースで見直す。

- ・ 補助金の総額を減らすこと・・・事業費の1/2補助
- ・ 行政目的を効率的に達成する手段・・・終期を定め、検証を徹底する。

- ・ 少額補助金の概念見直し、補助金の分類、受け取る側の意識改革、情報の開示に重点を置き、ガイドラインの作成を進められたい。

◆すべての補助金に関して、ヒアリング・検証を行った。

現状の課題、行革委員会の意見を整理し、方針に反映したため、改めてご意見をいただく機会としたいと考えている。

- ・ 補助金配分手続きはどうなっているか。国だと枠が決まっていて自治体がそれぞれ申請する。同じ方法か。

⇒ 基本的には、申請があれば補助金交付要綱に基づき、予算の範囲内で支出し、年度末に実績報告を提出してもらう、という手続きを取っている。

- ・ 補助金の枠はあらかじめ決められているのか、それとも各団体等からの申請額を積み上げて枠としているのか。

- ・ 例えば耐震化の補助金だと、工費の〇〇%など数値が決まっているものが多いが、そういうものが多いのか。

⇒ 桑名市では、団体の事業に対する補助金が高い割合を占める。複数の申請者から交付先を決定するような補助金はほとんど無い。したがって、補助金を見直すことは団体の財政に直接関わるため、なかなか難しい。補助金20%カットを行った時は、500万円以上の補助金を交付している団体に対してヒアリングを行ったが、補助金が不要と答える団体は一つもなかった。当時は財政的に補助金総額を減らす目的があったため、一律20%カットを敢行した。

以 上